

<会議資料>

平成24年度

第2回 練馬区立美術館運営協議会

練馬区立美術館

(平成25年3月19日)

## 平成24年度(第2回)練馬区立美術館運営協議会 資料目次

1. 練馬区立美術館運営協議会委員名簿	1
2. 練馬区立美術館運営協議会条例	2
3. 平成25年度 事業計画(案)	
(1)平成25年度 予算	3
(2)展覧会事業(案)	
平成25年度 展覧会事業日程(案)	4
牧野邦夫展(案)	6
コレクション展(案)	7
N+N展(案)	8
鹿島茂展(案)	9
宮芳平展(案)	10
渡辺千尋展(案)	11
野口哲哉展(案)	12
(3)教育普及事業(案)	
平成25年度 教育普及事業計画(案)	13
4. 平成24年度 事業報告	
(1)展覧会事業	
平成24年度 展覧会事業日程および観覧者数	17
鹿島茂コレクション2 ハルピエ×ラブルール展	19
平澤熊一展	20
N+N展2012 触れる 感覚のレッスン	21
特別展 生誕100年 船田玉樹展	22
「棚田康司 たちのぼる。」展	23
人間国宝大坂弘道展	24
超然孤独の風流遊技 小林猶治郎展	25
富田由紀子展	26
(2)教育普及事業	
平成24年度 教育普及事業実績	27
平成24年度博物館実習実績	35
(3)ぐるっとパスの利用状況	
平成24年度ぐるっとパスの利用状況	36
5. 文化芸術振興施策の今後のあり方について	37
6. 美術の森緑地の整備について	別紙

## 第14期 練馬区立美術館運営協議会委員名簿

平成25年3月19日現在

		氏 名	役 職	
学識経験者	委員	栗 津 則 雄	文芸評論家	
	委員	高 橋 幸 次	日大芸術学部美術学科教授	
	委員	青 木 茂	文星芸術大学教授	
	委員	伊豆井 秀 一	埼玉県立近代美術館 専門員兼学芸員	
	委員	大 橋 皓 也	洋画家	
	委員	佐 藤 康 宏	東京大学教授	
	委員	松 本 透	東京国立近代美術館副館長	
	委員	井 出 洋一郎	府中市美術館館長	
練馬区議会 議員	委員	小 川 けいこ	区議会議員	
	委員	米 沢 ちひろ	区議会議員	
	委員	松 村 良 一	区議会議員	
	委員	土 屋 としひろ	区議会議員	
公募区民	委員	中 島 悠 子	公募区民	
	委員	安 斉 紀 子	公募区民	
	委員	畑 浩 二	公募区民	
美術関係者	委員	伊 藤 定 夫	練馬・文化美術の会代表	
	委員	宮 澤 歳 男	練馬区美術家協会副会長	
学校教育関係者	委員	堀 井 安 伸	石神井東中学校長	
	委員	吾 妻 彰	谷原小学校教諭	

## 練馬区立美術館運営協議会条例

昭和 60 年 10 月 8 日

条例第 45 号

(設置)

第 1 条 練馬区立美術館(以下「美術館」という。)の運営方針および事業計画を協議するため、練馬区立美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(所掌事項)

第 2 条 協議会は、区長の諮問に応じてつぎに掲げる事項について審議し、答申する。

- (1) 美術館の運営方針に関すること。
- (2) 美術館の事業計画に関すること。
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事項

2 協議会は、前項各号に掲げる事項について、区長に意見を述べることができる。

(定数)

第 3 条 協議会は、委員 19 人以内をもって組織する。

(委員)

第 4 条 委員は、つぎの各号に定めるところにより、区長が委嘱する。

- (1) 学識経験者 8 人以内
- (2) 練馬区議会議員 4 人以内
- (3) 区民 3 人以内
- (4) 美術団体関係者 2 人以内
- (5) 学校教育関係者 2 人以内

2 前項第 3 号に規定する区民は、公募により選任するものとする。

(任期)

第 5 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長および副会長)

第 6 条 協議会に会長および副会長を各 1 人置く。

- 2 会長および副会長は、委員が互選する。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第 7 条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議長は、会長が務める。
- 4 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決する

ところによる。

- 5 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(部会)

第8条 協議会は、第2条第1項に規定する事項について調査検討を行うため、部会を置くことができる。

2 部会は、会長の指名する委員をもって組織する。

3 部会は、協議会の求めがあったときは、必要な事項を報告しなければならない。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(委任)

第10条 この条例の施行について必要な事項は、練馬区規則で定める。

付 則 この条例は、公布の日から施行する。

付 則 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

### 3. 平成 25 年度事業計画(案)

#### (1)平成 25 年度 予算

歳入

単位:千円

科目 \ 年度	25年度	24年度	増 減	伸び率
総 額	21,032	18,422	2,616	14.2%
1 美術館使用料	10,557	9,725	832	8.6%
2 財産収入	30	60	30	50.0%
3 諸収入	10,445	8,637	1,808	20.9%

歳出

単位:千円

科目 \ 年度	25年度	24年度	増 減	伸び率
総 額	133,767	131,707	2,060	1.5%
1 運営費 (一般事務費)	12,133	15,485	3,352	21.7%
2 維持管理費	61,363	62,215	852	1.4%
3 展示事業経費	51,059	51,995	936	1.8%
4 教育普及経費	1,639	2,012	373	18.6
5 美術の森緑地整備費	7,573	0	7,573	

美術作品取得基金現在高

単位:円

基 金	平成 25 年 2 月末現在高		
	美術作品取得額	現 金	計
100,000,000	13,587,500	86,412,500	100,000,000

## (2) 展覧会事業(案)

## 平成25年度 展覧会事業日程(案)

3階展示室			2階展示室		
会期	展覧会名	担当	会期	展覧会名	担当
4月14日 6月2日 <43日間>	【有料】 牧野邦夫 写実の精髓展				野地
6月7日 6月16日 <9日間>	【無料】 第59回練馬区美術家協会展	内田	6月7日	【無料】 コレクション展 時代と美術1 <25日間>	真子
6月18日 6月23日 <6日間>	(一般貸出)		7月7日		
6月27日 7月7日 <10日間>	【無料】 N + N展2013	真子	<25日間>		
7月14日 9月8日 <50日間>	【有料】 鹿島茂コレクション3モダン:パリの装い - 19世紀から20世紀初頭のファッション・プレート				小野
9月15日 11月24日 <61日間>	【有料】 生誕120年 宮 芳平 - 野の花のように展				上山
11月30日 12月28日 <25日間>	(一般貸出)		11月30日	【無料】 渡辺千尋 - 復刻の聖母 - 展 <44日間>	小野
1月11日 1月15日 <4日間>	中学校生徒作品展	中野			
1月18日 1月23日 <5日間>	小学校連合同工展	中野			
1月25日 1月26日 <2日間>	小中学校連合書きぞめ展	中野	2月9日		
2月1日 2月9日 <8日間>	【無料】 第45回練馬区民美術展	内田	<44日間>		
2月16日 4月6日 <43日間>	【有料】 野口哲哉の武者部類図鑑展				加藤

## 「牧野邦夫 写実の精髓」展

### 開催要項

- 1 開催趣旨 牧野邦夫(1925～86年)は、大正末に東京に生まれ、1948年に東京美術学校油画科を卒業したが、戦後の激動期に次々に起こった美術界の新たな潮流に流されることなく、まして団体に属して名利を求めることなどからは遠く身を置いて、ひたすら自己の信ずる絵画世界を追求し続けた。  
高度な油彩の技術で、胸中に沸き起こる先鋭で濃密なイメージを描き続けた牧野の生涯は、描くという行為の根底に時代を超えて横たわる問題と格闘する日々であった。レンブラントへの憧れを生涯持ち続けた牧野の視野には、一方で伊藤若冲や葛飾北斎、川鍋暁斎といった画狂人たちの系譜に連なるような、描くことへの強い執着を感じる。北方ルネサンス的なリアリズムと日本の土俗性との葛藤という点では、岸田劉生の跡を継ぐ者という見方も出来るだろう。  
没後の1990年に開催された遺作展は作品愛好家と画家たちに強い印象を与えたが、牧野が精魂こめて描き遺した作品群を再度調査し直し、より充実度を増しての公開を目指す20年後の本展では、より多くの人々にその真価を気付いてもらう絶好の機会となった。
- 2 会期 平成25年4月14日(日)～6月2日(日)
- 3 主催 練馬区立美術館 / 日本経済新聞社、テレビ東京  
\*協賛=ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン  
サントリーホールディング株式会社
- 4 内容 油彩画・素描など120点
- 5 観覧料 有料
- 6 図録 図録兼書籍として制作(求龍堂)
- 7 イベント
  - ・学芸員とゲストによるギャラリートーク、講演会  
(五味文彦、諏訪敦、石黒賢一郎、山下裕二)
  - ・コンサート  
ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンスペシャルコンサート  
(フルート:長谷見誠、ピアノ:神水睦子)  
牧野邦夫が愛したギター曲コンサート  
(フラメンコギタリスト:三澤勝弘)
  - ・声優 銀河万丈による読み語り(江戸川乱歩「人間椅子」)
- 8 観覧者数 17, ???人(???人/日)
- 9 担当 主任学芸員 野地耕一郎

練馬区立美術館コレクション展 時代と美術1  
「1930～50年代前半 伸縮する内と外 鬘光《花と蝶》を中心に」(仮称)

開催要項(案)

- 1 開催趣旨 練馬区立美術館の開館 30 周年に向け、4 回に渡り当館のコレクション展を開催する。  
当館の所蔵品約 2,400 点は、近現代の日本の作家を中心に収集されてきた。「時代と美術」と名付けられたこのシリーズは、作品や作家を単体で眺めるのではなく、それぞれが時代の中でどのような位置を示してきたのかという視点を持ち展開していく。第 1 回は 1930～50 年代前半に焦点を当て、鬘光を中心に、斎藤長三や鳥海青児、寺田政明、鶴岡政男らの、戦中戦後の作品を展示する。
- 2 会期 平成 25 年 6 月 7 日(金)～7 月 7 日(日)
- 3 会場 2 階 常設展示室
- 4 主催 練馬区立美術館
- 5 内容 絵画、版画、彫刻等 約 40 点
- 6 図録 リーフレットを作成
- 7 観覧料 無料
- 8 イベント 学芸員によるギャラリートーク、ワークショップ、鑑賞プログラム等開催
- 9 観覧者見込 6,250 人(250 人/日)
- 10 担当 学芸員 真子みほ

## N+N 展 2013(タイトル未定)

### 開催要項(案)

- 1 開催趣旨      5 回目を迎える日本大学芸術学部（日藝）美術学科と練馬区立美術館の共同企画展。過去 4 回の実績を踏まえ、美術学科を中心に音楽や写真、演劇やデザインなど様々な学科の卒業生の作品を展示し、日藝全体の魅力を伝える。  
    なお、この展覧会は平成 25 年度日本大学芸術学部長指定研究の一環として開催される。
- 2 会期            平成 25 年 6 月 29 日（木）～7 月 7 日（日）
- 3 会場            3 階 企画展示室
- 4 主催            練馬区立美術館 / 日本大学芸術学部
- 5 内容            彫刻、絵画、写真など約 30 点を展示
- 6 図録            展覧会終了後、日本大学芸術学部が記録集を制作
- 7 観覧料         無料
- 8 イベント       講演会、ギャラリートーク、コンサート、ワークショップ等開催
- 9 鑑賞者見込    2,000 人（200 人/日）
- 10 担当           学芸員 真子みほ

## 鹿島茂コレクション3 モダン・パリの装い

19世紀から20世紀初頭のファッション・プレート (仮称)

### 開催要項(案)

- 1 開催趣旨 平成23年度よりフランス文学者の鹿島茂氏(1949- / 明治大学教授)の膨大な古書コレクションから連続的に展覧会を開催している。第1回目は、19世紀フランスを代表する挿絵画家、J.J.グランヴィルを、第2回目では、アール・デコ期を中心に活躍した共にフランス、ナント出身の2人の画家 ジョルジュ・バルビエとジャン＝エミール・ラブルールを紹介した。

第3回にあたる本展では、19世紀から20世紀初頭のアール・デコの時代までに描かれたモードのイラストレーションを紹介、合わせて、京都服飾文化研究財団の貴重なコレクションより、同時代を代表する華麗な衣裳を展示、それぞれの時代の流行のファッションから華やかな女性の装いを展覧する。

ファッション・プレートを手掛けたアーティストとして、19世紀では、オーラス・ヴェルネ(Horace Vernet, 1789-1863)、ガヴァルニ(Gavarni, 1804-66)、ルイ・マリー＝ランテ(Louis-Marie Lanté, 1789 - ?)を、20世紀初頭では、バルビエと同じく、アール・デコの時代に活躍したシャルル・マルタン(Charles Martin, 1848 - 1934)、アンドレ・マルティ(André Marty, 1882 - 1974)、ジョルジュ・ルパップ(Georges Lepape, 1887 - 1971)の作品を中心に紹介する。フランス近代のファッション・プレートを中心に、イラストレーションの熟達した世界を披露する。

- 2 会期 平成25年7月14日(日)~9月8日(日)
- 3 主催 練馬区立美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会
- 4 後援 フランス大使館(予定)
- 5 協力 公益財団法人 京都服飾文化財団
- 6 協賛 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
- 7 展示内容 版画、古書(挿絵本)、ポスター、衣裳を中心とした約200点
- 8 図録 図録兼書籍として制作(求龍堂)
- 9 観覧料 有料
- 10 イベント
- ・講演会(鹿島茂、深井晃子)
  - ・ギャラリートーク(鹿島茂)
  - ・シャンソン・コンサート(広瀬敏郎)
  - ・読み語り(銀河万丈)
- 11 観覧者 12,500人(250人/日)
- 12 担当 学芸員 小野寛子

「生誕 120 年 宮 芳平 野の花のように」展  
開催要項

- 1 開催趣旨 新潟県魚沼に生まれた宮芳平（1893～1971 年）は、東京美術学校に学びます。在学中、第 8 回文展に自信作《椿》を出品するも落選、このとき審査員長であった森鷗外を訪ねたことから二人の交流がはじまり、宮をモデルとした鷗外の短編小説「天寵」が生まれました。1915 年の第 9 回文展にはアールヌーボーを取り入れた象徴派風の点描画による作品《海のメランコリー》が入選。初期にはキリスト教的雰囲気をもった制作を続け、やがて 1923 年に長野県諏訪高等女学校の美術教師として赴任し、65 歳で退職するまで教職を務めながら、自然を対象に主観的風景画を描き続けました。本展は生誕 120 年を記念し、生涯を市井の画家として生きた宮の画業を油彩画作品、素描、銅版画、ペン画などにより回顧するものです。
  
- 2 会期 平成 25 年 9 月 15 日(日)～11 月 24 日(日)  
\* 巡回予定： 茅野市美術館 平成25年8月2日～9月1日  
島根県立石見美術館 平成25年12月21日～平成26年2月24日  
新潟県立近代美術館 平成26年4月～5月  
安曇野市豊科近代美術館 平成26年7月～8月
  
- 3 主催 練馬区立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
  
- 4 協賛 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
  
- 5 内容 宮芳平の油彩画、版画、素描、資料など約 200 点。
  
- 6 図録 図録兼書籍として制作（求龍堂）
  
- 7 観覧料 有料
  
- 8 イベント 講演会、ギャラリートーク、コンサート、読み語り等
  
- 9 観覧者数見込 10,000 人（164 人/日）
  
- 10 担当 学芸員 野地耕一郎、喜多秀臣

## 渡辺千尋 - 復刻の聖母 - 展(仮称)

### 開催要項(案)

- 1 開催趣旨 1944年、東京に生まれた渡辺千尋は、桑沢デザイン学校でグラフィックを学び、当初はデザインや挿画の仕事に携わったが、かたわら銅版画の制作をはじめ、1979年日本版画協会奨励賞を受賞し、1989年にはチェコ国立版画美術館に「象の風景」シリーズ全作品が買い上げられるなど、2008年に急逝するまで銅版画家として活躍した。その一方で、『ざくろの空 頓珍漢人形伝』(第1回蓮如賞受賞)などを著した文筆家としての活動も知られている。また、渡辺は16世紀末に日本ではじめて制作された銅版画とされている「セビアの聖母」を復刻し、その道程は自身の著書『殉教の刻印』(第8回小学館ノンフィクション大賞優秀賞受賞)に詳細に記されている。  
本展では、この復刻の「セビアの聖母」に焦点をあてながら、渡辺の画業を、初期のグラフィックの仕事から銅版画、油彩画まで紹介する。
- 2 会期 平成25年11月30日(土)~2月9日(日)
- 3 会場 2階 常設展示室
- 4 主催 練馬区立美術館
- 5 展示内容 版画、装丁、油彩など約50点
- 6 図録 リーフレットを制作
- 7 観覧料 無料
- 8 イベント ギャラリー・トークなど開催予定
- 9 観覧者数 8,360人(190人/日)
- 10 担当 学芸員 小野寛子

むしやぶるいずかん  
「野口哲哉の武者分類図鑑」展（仮称）  
開催要項(案)

- 1 開催趣旨 1980年生まれの野口哲哉は、実際の製作と同じ手順で精巧なミニ甲冑を作り、人形に着せて、その武者たちの物語を紡ぎだす、洒脱と迫真を相持った美術家です。

南蛮渡来のシャネルのマークを家紋とした甲冑を身にまとった“紗錬家”の武者像「シャネル侍着甲座像」がある一方で、兜に付いたプロペラ型の立物で空中を浮遊する武者の絵画作品「ホバリングマン 浮遊図」は当時あたかもそんな武者がいたかのように、巧妙に古びた画面を演出しています。野口が作品を制作する際に思い描くストーリーは彼曰く“でっちあげ”ですが、サムライ、甲冑への知識に裏付けられた空想世界は実に豊かで、史実とのはざまを行き来するユニークで独創的なものとなっています。

加えて、甲冑の表現の正確さや、サムライたちの立ち振る舞い、表情の豊かさが作品に厚みを与えていると言えます。

作家はまだ30代半ばで活動期間は短いとはいえ、コレクターは国内外に及び、展覧会出品作、個展での評価も高く、今まさに注目される作家の一人です。

一貫して鎧武者をモチーフに制作する野口のほぼ全作品と言える約70点を中心に、彼の発想の原点となった古今の美術作品や写真、グラフィックデザインなどを併せて展示し、時代を超越し、現代へと脈々と続くカッコいい鎧武者の系譜を辿る展覧会です。
- 2 会期 平成26年2月16日(日)～4月6日(日)
- 3 主催 練馬区立美術館 朝日新聞社
- 4 内容 野口哲哉の立体・平面作品約70点に加え、甲冑、近世・近代の絵画作品、古写真等
- 5 観覧料 有料
- 6 図録 制作する
- 7 イベント 講演会、ギャラリートーク、コンサート、読み語り等
- 8 観覧者数見込 8,000人(186人/日)
- 9 担当 学芸員 加藤陽介

## (3)教育普及事業(案)

## 平成25年度 教育普及事業計画(案)

## 館内事業

## ) 展覧会関連 (各展覧会を楽しむ)

## 関連ワークショップ・講座

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	コレクション展 関連ワークショップ 講師:当館学芸員	6月(土)	1回	小学生 ~大人	20名
2	N+N展関連ワークショップ	6~7月	2回	小学生	未定
3	鹿島コレクション3関連美術講座 木版リトグラフ「描いて作る版画に挑戦!」 講師:齋藤美穂子(町田市国際版画美術館)	8月3日(土)・4日 (日)	1回 (2日制)	小学生	20名
4	鹿島コレクション3関連ワークショップ 「ぼんぼんステンシル いろんな型紙で絵を描こう」 講師:当館学芸員	8月2日(金)・9日 (金)・10日(土)	3回	小学生	各回 20名
5	鹿島コレクション3関連ワークショップ 「100年前の Chapeau(シャポー)」 講師:当館学芸員	8月18日(日)	2回	小学生 +保護者	各回 10組
		8月23日(金)24日 (土)・25日(日)	4回	3~6歳 +保護者	各回 10組
6	宮芳平展関連美術講座	11月	1回	未定	未定
7	野口哲哉展関連美術講座	2月	1回	未定	未定

## ギャラリートーク

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	牧野邦夫展	4~5月(土)	3回	自由参加	
2	コレクション展	6~7月(土)	2回	自由参加	
3	鹿島コレクション3展	7~9月(土)	1回	自由参加	
4	宮芳平展	12~1月(土)	未定	自由参加	
5	野口哲哉展	2~4月(土)	未定	自由参加	

## コンサート・ライブパフォーマンス

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	牧野邦夫展関連読み語り 出演:銀河万丈(声優)	5月11日(土)	1回	高校生 以上	70名
2	牧野邦夫展関連フラメンコ・ギター コンサート 出演:三澤勝弘	5月25日(土) 15:00~	1回	自由鑑賞	
3	N+N展関連コンサート 出演:未定	6月	1回	自由鑑賞	
4	鹿島コレクション3 関連シャンソンコンサート 出演:広瀬敏郎(シャンソン歌手)	8月3日(土)	1回	自由鑑賞	
5	鹿島コレクション3関連読み語り 出演:銀河万丈(声優)	8月4日(日)	1回	高校生 以上	70名
6	宮芳平展関連コンサート 出演:未定	10月	1回	自由鑑賞	
7	宮芳平展展関連読み語り 出演:銀河万丈(声優)	未定	1回	高校生 以上	70名
8	野口哲哉展関連コンサート 出演:未定	2月	1回	自由鑑賞	
9	野口哲哉展関連読み語り 出演:銀河万丈(声優)	未定	1回	高校生 以上	70名

## 鑑賞プログラム

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	トコトコ美術館	6、1月	4回	3歳～6歳 + 保護者	各回 5組

## 講演会など

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	牧野邦夫展関連講演会 山下裕二氏	6月1日(土)	1回	中学生 以上	70名
2	鹿島コレクション3関連講演会 鹿島茂氏	8月10日(土)	1回	中学生 以上	70名
3	鹿島コレクション3関連講演会 深井晃子氏	8月24日(土)	1回	中学生 以上	70名
4	宮芳平展関連講演会	未定	1回	中学生 以上	70名
5	野口哲哉展関連講演会 「甲冑の歴史」	未定	1回	中学生 以上	70名

## ) 美術講座 (美術に関する知識を学ぶ)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	美術史 講師:未定	9～10月	2回	中学生 以上	各回 60名
2	デッサン 講師:未定	1月	1回 (2日間)	中学生 以上	20名
3	日本画実技 講師:未定	2月	1回 (2日間)	中学生 以上	20名
4	おでかけ美術館 講師:当館学芸員	3月	2回	小学4～6年 生	各回 10名

## ) 美術館を楽しむワークショップ(人が集う「場」作り)

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
2	四季のみじたく シリーズ 夏のみじたく 講師:未定	6月(土)	1回	小学4年生 以上	20名
3	美術館をつかまえる!?館内探検とフロッタージュ遊び	8月11日(日)午 前・午後,16日 (金)17日(土)	4回	5歳～ 小学3年生	各回 10名
4	四季のみじたく シリーズ 秋のみじたく 講師:未定	9月(土)	1回	小学4年生 以上	20名
5	四季のみじたく シリーズ 冬のみじたく 講師:未定	11月(土)	1回		20名
6	四季のみじたく シリーズ 春のみじたく 講師:宮園夕加(ポタンデザイナー)	3月(土)	1回		20名

## ) その他

	事業名	開催予定日	回数	対象	定員
1	軽井沢お泊りワークショップ 講師:よこやまさちこ(フラワーアーティスト) ベルデ軽井沢で行う1泊2日のワークショップ2回目。	11月9日(土) ～10日(日)	1回 (2日間)	小学生以上	20名

## 学校関連事業

### ）スクールプログラム パンフレットを作成し各学校に配布。

- 団体鑑賞 美術館担当者がマナーの説明や展示解説を行い鑑賞のお手伝いをする
- 施設見学 各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設全体を紹介する
- 職場体験 受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝える
- 職場訪問 職場体験の事前学習として来館する生徒による館内職員へのインタビューなどを受ける
- 出張プログラム 担当者が学校へ赴きコレクションや開催中の展覧会に関連した授業のお手伝いをする

### ）ティーチャーズデイ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中高等学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設ける。各日ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とする。

平成24年度は4回開催する。

	展 覧 会 名	開催予定日
1	牧野邦夫展	4月16日(火)
2	鹿島コレクション3	7月23日(火)
3	宮芳平展	9月30日(火)
4	野口哲哉展	2月19日(火)

### ）スクールミュージアム スクールプログラム で使用予定

美術館の所蔵作品を学校の授業に役立ててもらうため、紙製の図版カード(トランプ大)、マグネットシート(A4版/A3版)、専用パネルの貸し出しを行う。これらのツールは、平成18年文化庁芸術拠点形成事業助成を受け、当館の所蔵作品から104点を選出し、作成された。

## 4.平成24年度事業報告

### (1)展覧会事業

#### 平成24年度 展覧会事業日程および観覧者数

##### 企画展等

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
4月8日(日) ～6月3日(日)	鹿島茂コレクション2 パルビエ×ラブルール アール・デコ、色彩と線描のイラストレーション	49	14,700 (300)	10,081 (206)	68.6%
6月28日(木) ～7月8日(日)	N+N2012(練馬区立美術館・日大芸術学部合 同展) 触れる 感覚のレッスン	10	1,300 (130)	2,125 (213)	163.5%
7月15日(日) ～9月9日(日)	特別展「生誕100年 船田玉樹 - 異端にして正統、孤高の画人生。」	49	9,000 (184)	13,436 (274)	149.3%
9月16日(日) ～11月25日(日)	「棚田康司 - たちのぼる。」展	61	10,000 (164)	6,376 (105)	63.8%
2月17日(日) ～4月7日(日)	「超然孤独の風流遊技 - 小林猶治郎展」 「富田有紀子展」	43	4,440 (103)	4,440 (103)	100.0%
合 計		212	39,440 (186)	36,458 (172)	92.4%
前年度		196		51,271 (262)	前年度比 71.1%

小林猶治郎展、富田有紀子展は、3月12日段階の実数に見込を加えた。

##### 2階常設展示室によるコレクション展

観覧者数は、同時開催の企画展がある場合はその観覧者数、ない場合は常設展示室の入場者数から

開催期間	展覧会	開催 日数	観覧者目標 (1日当り)	観覧者実数 (1日当り)	目標比 (%)
6月8日(金) ～7月8日(日)	平澤熊一展 うちのめされた時がほんとうに人生をしっかり 生きるとき	27	3,510 (130)	6,672 (247)	190.1%
11月29日(日) ～2月11日(月・祝)	「人間国宝 大坂弘道展」 正倉院から蘇った珠玉の木工芸	60	10,800 (180)	15,272 (255)	141.4%
合 計		87	14,310 (164)	21,944 (252)	153.3%
前年度		83	観覧者数 1日当り	13,497 (163)	前年度比 154.6%

企画展・コレクション展観覧者数(実数)比較	23年度	24年度	前年度比
	64,768	58,402	90.2%

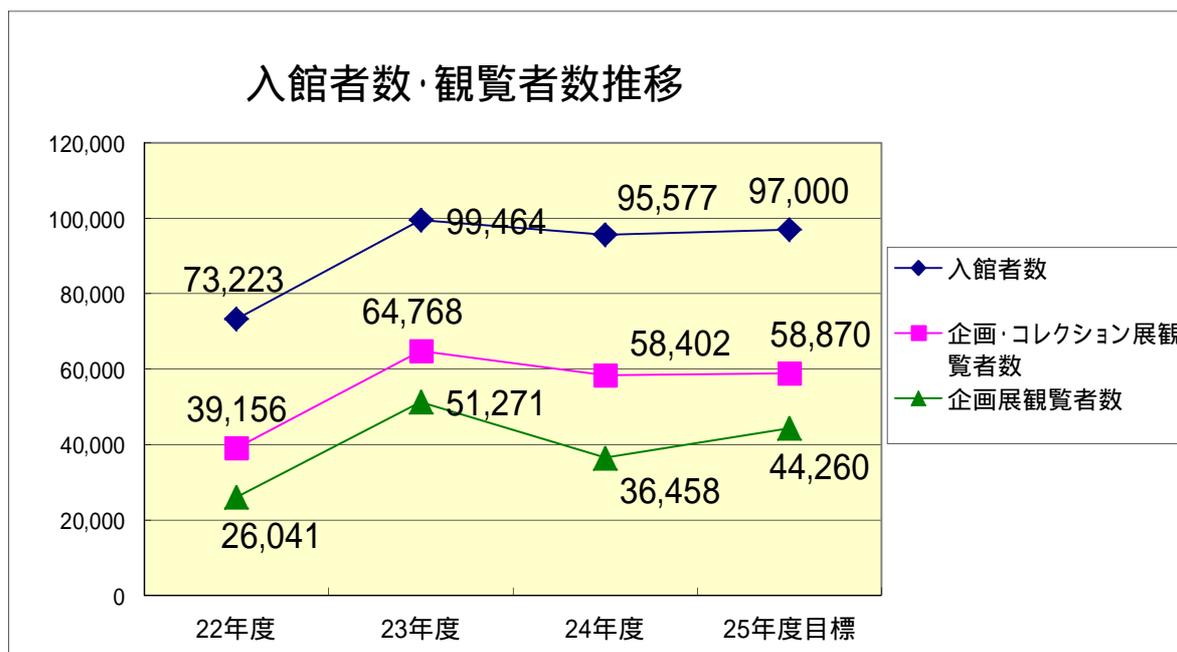
企画展、N+N展、船田玉樹展は目標を大きく上回った。鹿島茂コレクション展、棚田康司展は目標を下回ったがアールデコ期のフランス版画、現代若手木彫作家のまとまった形での初めての紹介となり、アート界、ファッション界で注目を集め、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、ネットなど多彩なメディアで取りあげられた。

コレクション展は、無料である上、同時開催の小中学校展などの流れを受け、目標をはるかに上回った。とりわけ、大坂弘道展は、作品の希少性、クオリティーの高さが評判となり、全国の木工芸作家・ファンの来館が続いた。3月が予定どおり推移すれば、企画展・コレクション展計で目標を達成することが見込まれる。(目標比108.7%)

各種展覧会

開催期間	展覧会	開催日数	観覧者実数 (1日当り)	
6月8日(金) ～6月17日(日)	第58回練馬区美術家協会展	9	1,401 (156)	
1月12日(土) ～1月16日(水)	中学校生徒作品展	4	2,830 (708)	
1月19日(土) ～1月24日(木)	小学校連合同工展	5	9,280 (1,856)	
1月26日(土) ～1月27日(日)	小・中学校連合書初め展	2	10,527 (5,264)	
2月2日(土) ～2月11日(月)	第42回練馬区民美術展	9	2,611 (290)	
合 計		29	26,649 (919)	前年度比 96.7%
前年度		29	27,558 (950)	

入館者数比較	23年度	24年度	前年度比
	99,464	95,577	96.1%



## 鹿島茂コレクション 2 バルビエ×ラブルール

### アール・デコ、色彩と線描のイラストレーション

#### 開催要項

- 1 開催趣旨 平成 23 年度よりフランス文学者の鹿島茂氏（1949- / 明治大学教授）の膨大な古書コレクションから連続的に展覧会を開催している。第 1 回目は、19 世紀フランスを代表する挿絵画家、J.J. グランヴィルを紹介した。第 2 回目にあたる本展では、アール・デコ期を中心に活躍した共にフランス、ナント出身の 2 人の画家 ジョルジュ・バルビエ（Georges Barbier, 1882 - 1932）とジャン＝エミール・ラブルール（Jean-Emile Laboureur, 1877 - 1943）を取り上げた。

バルビエは、当時の代表的なモード雑誌の挿絵や豪華挿絵本のみならず、映画や舞台の衣装デザインまでも手掛け、その活躍は挿絵画家の領域を越えたものであった。大胆な構図と躍動感、美しい色彩が印象的な作品世界は現在もなお多くのファンを惹きつけている。ラブルールは、バルビエのような色彩豊かな画面とは異なり、シャープな黒線によって構成された版画作品を制作した。様々な版画技法を身につけたラブルールは、1920 年代に入ると多くの文学作品の挿絵も手掛けるようになる。あらゆる情景をスピーディー且つファッションブルなタッチで捉え、人気を博した。本展では、バルビエとラブルール、二人の作品群をほぼ網羅し、対照的とも言えるスタイルの作品世界を紹介した。
- 2 会期 平成 24 年 4 月 8 日（日）～6 月 3 日（日）
- 3 主催 練馬区立美術館 / 読売新聞社
- 4 後援 フランス大使館
- 5 協賛 ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン
- 6 協力 サントリーホールディングス株式会社
- 7 展示内容 版画、古書（挿絵本）、ポスターを中心とした 113 種（出品点数約 200 点）
- 8 図録 図録兼書籍として制作（求龍堂、3300 円）  
（1、864 冊販売、来館者比率 18%）  
\* 第 54 回全国カタログ・ポスター展 カatalogの部で奨励賞受賞  
（主催 / 社団法人 日本印刷産業連合会）
- 9 観覧料 有料
- 10 イベント 高階秀爾氏、鈴木晶氏、深井晃子氏、鹿島茂氏による特別講演会（計 5 回）を開催。  
ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンによるコンサート（計 2 回）を実施。  
ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン会場での鹿島茂氏講演会、キッズプログラムでのワークショップを開催（計 2 回）
- 11 観覧者 10,081 人（206 人 / 日）当初見込 14,700 人（300 人 / 日）
- 12 担当 学芸員 小野寛子

「平澤熊一展」  
うちのめされた時がほんとうに人生をしっかり生きる時

開催要項

1 開催趣旨

平澤熊一（ひらさわ くまいち、1908-1989、新潟県長岡市生まれ）は、建築を学ぶために上京。工学院を卒業したのち、川端画学校で洋画を学ぶ。当時そこには柿手春三や井上長三郎らのちに池袋界隈を拠点にシュールレアリスムを推進することになる仲間たちの姿があり、平澤は彼らと共に画家としての道を歩み始めることとなる。

1933年からの約4年間は、絵描きとして頼るもののない台湾に渡り、貧しい生活の中で孤独な絵画修行を行う。帰国後は阿佐ヶ谷や要町など東京を転々としながら、独立美術展に出品しつづけた。しかし太平洋戦争末期、東京が激しい空襲に見舞われると、新潟に疎開。その後、妻の実家のある宇都宮に自ら設計したアトリエを構え、自由美術展を中心に作品を発表した。

本展は、当館に新たに収蔵される油彩画を核に、忘れられた画家・平澤熊一の画業を紹介するもの。台湾各地でスケッチされた風景や現地の人々、日本に帰国してからできた家族や幼い子どもたちの肖像など、平澤の身近な対象を真摯な目でとらえた素描類、それに日々書き記された日記の文章を添えて展示した。

- |        |   |
|--------|---|
| 2 会期   | 平成24年6月8日(金)～7月8日(日)                                |
| 3 会場   | 2階 常設展示室  |
| 4 主催   | 練馬区立美術館   |
| 5 展示内容 | 平澤熊一の油彩画約40点、水彩・素描など約30点<br>(所蔵作品のほか、遺族アトリエから作品を借用) |
| 6 図録   | 出品作品を掲載したリーフレットを制作                                  |
| 7 観覧料  | 無料  |
| 8 イベント | 学芸員とゲスト(作家関係者)によるギャラリートークを開催                        |
| 9 観覧者  | 6,672人(247人/日)当初見込3,510人(130人/日)                    |
| 10 担当  | 学芸員 上山陽子  |

## N+N 展 2012

### 「 触れる 感覚のレッスン 」

#### 開催要項

##### 1 開催趣旨

4 回目となる日本大学芸術学部(日藝)美術学科と練馬区立美術館の共同企画展。今年は「触れる」をテーマに日藝教職員の作品展示を行った。

これはいいなと思える作品に出会えたとき、様々な感覚が鋭敏になり、全身で作品の存在を感じることもある。例えば作品を観るとき「肌で感じる」「心に触れる」という言葉があるように、触覚が視覚と同時に働く場面がある。そもそも観賞体験は、受動的に見えて実は能動的かつ全感覚的なものである。本展では、こうした感覚を呼び覚ますであろう、実際に触れたり動かしたりすることができる作品を中心に紹介し、様々なアートへ「触れる」体験を提供した。

なお、この展覧会は平成 24 年度日本大学芸術学部長指定研究の一環として開催された。

2 会期 平成 24 年 6 月 28 日(木)～7 月 8 日(日)

3 会場 3 階 企画展示室

4 主催 練馬区立美術館 / 日本大学芸術学部美術学科

5 内容 彫刻、遊具、写真など約 10 点を展示

6 図録 日本大学芸術学部美術学科が記録集を作成(1 月 31 日発行)

7 観覧料 無料

##### 8 イベント

(1)6/30 ダンス公演「薔薇」江上真子(演劇学科 3 年生)、創舞：笹山志帆(演劇学科助手)、  
舞台装置：鞍掛純一(芸術学科教授)、音楽：川上央(音楽学科教授)

(2)7/7 ワークショップ「ジャイアントメイズをみんなで作って遊ぼう」桑原淳司(デザイン学科教授)

(3)7/7 ワークショップ+演奏会「野菜で楽器を作って演奏しよう」川上央(音楽学科教授)

(4)7/8 講演会「触れる 高村光太郎「感覚の世界」から」高橋幸次(美術学科教授)

9 入館者数 2,125 名(213 人/日) 当初見込み 1,300 人(130 人/日)

10 担当 学芸員 真子みほ

ふなだぎょくじゅ  
特別展「生誕 100 年 船田玉樹  
異端にして正統、孤高の画人生。」展  
開催要項

- 1 開催趣旨 日本画家・船田玉樹(1912～91)の没後初の大きな回顧展。

広島県呉市に生まれた玉樹は、最初は油画を学ぶために上京、琳派の華麗な作品を見て感銘、すぐに日本画に転向した。速水御舟(1894-1935)に師事するが、まもなく没したため、その後は小林古径に師事して、謹厳な線描と端麗な色彩を駆使した日本画表現を学んだ。その後、昭和 13 年(1938)からは岩橋英遠や丸木位里らと「歷程美術協会」を結成して、シュールレアリスムや抽象主義などを積極的に取り入れ、日本画を基礎にした前衛表現を戦中まで追究した。

しかし、戦後は、郷里広島にひきこもって創作を続け、岩絵具や墨のみならず油彩やガラス絵など様々な画材とひたすら向き合った作品を残した。その作品は、御舟や古径の芸術の精髓を正統に受け継ぎ、精緻にして絢爛、端麗にして華美、そして豪胆そのものであり、驚くことに、晩年にいたってますます豊かに華やかになっている。

本展は、晩年まで制作された多彩な作品約 200 点を一挙公開し、絵が人生そのものだったこの特異な画家の全容にせまるものである。
- 2 会期 平成24年年7月15日(日)～9月9日(日)  
\*巡回： 広島県立美術館 平成25 年1月14日(月・祝)～2月17日(日)
- 3 主催 練馬区立美術館 / 朝日新聞社
- 4 助成 芸術文化振興基金
- 5 図録 図録兼書籍として共同制作(求龍堂)(3,000 円)
- 6 観覧料 有料
- 7 イベント
  - ・コンサート
  - ・七弦琴によるコンサート(七絃琴：楊鵬 7/28)
  - ・テルミン・コンサート(テルミン奏者：船田奇岑 8/25)
  - ・学芸員とゲストによるギャラリートーク(7/21、8/4、9/8)
  - ・銀河万丈による読み語り(9/1)(貫井図書館共同主催)
- 8 観覧者数見込 13,436人(274人/日)当初見込9,000人(184人/日)
- 9 担当 主任学芸員 野地耕一郎

## 「棚田康司 - たちのぼる。」展

### 開催要項

- 1 開催趣旨 彫刻家、棚田康司を紹介した。2001年に文化庁の芸術家在外研修員として派遣されたドイツ、ベルリンでの滞在を経て、棚田の作風は一変した。自らの頭部などを利用していった寓意的な人物像から、他者へと目を向けた人物像へと移行した。それは「子ども」という対象へ焦点を完全に絞り込んだものであった。この主題は現在も続いているが、棚田は単に造形的興味から彼らの像を彫り続けているのではなく、しばしば社会において犠牲者となる「子ども」という存在への棚田自身の強い思い入れがあると言える。棚田の意識は、現代社会を生きる「子ども」たち それは我々の核であるのかもしれない を捉え、作家自身が自らと向かい合う術としているとも、また我々に人間をむき出しにして突きつけているとも捉えられるのではないだろうか。

本展では、これまで一貫して「人間」を、そして「子ども」を彫り続ける棚田の一連の作品群を、新作、及び制作過程のスケッチなども含め網羅的に紹介した。

< 棚田康司略歴 >

1968年、兵庫県生まれ。93年、東京造形大学卒業。95年、東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2001年、文化庁芸術家在外研修員としてドイツに7ヶ月滞在。05年、「第8回岡本太郎記念現代芸術大賞」特別賞受賞。出品歴多数、昨年は「棚田康司 とー(らせんとえんてい)」展(スパイラルガーデン、東京)を開催。

- 2 会期 平成24年9月16日(日)～11月25日(日)
- 3 主催 練馬区立美術館 / 日本経済新聞社 / フジテレビジョン
- 4 助成 花王財団
- 5 展示内容 木彫を36点、スケッチなどの資料約30点
- 6 図録 図録兼書籍として制作(青幻舎、2500円)
- 7 観覧料 有料
- 8 イベント アーティスト・トーク(9/22、10/27)、銀河万丈による読み語り(10/7)、特別講演会(暮沢剛巳・10/6 武笠朗・11/17)、子ども講演会(小倉絵里子・11/24)
- 9 観覧者数 6,376人(105人/日) 当初見込み10,000人(164人/日)
- 10 担当 学芸員 小野寛子

「人間国宝 大坂弘道展」正倉院から甦った珠玉の木工芸  
開催要項

- 1 開催趣旨 おおさかひろみち大坂弘道(1937生)は1997年、重要無形文化財(人間国宝)に認定された練馬区在住の木工芸作家。  
鳥取県倉吉市に生まれた大坂は東京学芸大学美術科卒業後、練馬区内の中学校で教員を務め、唐木細工、指物などの木工技法を独学し研鑽を積んだ。  
1980年に宮内庁から正倉院宝物の模造を委嘱されてより、教員を辞して調査・研究に没頭、試行錯誤を重ね、ついに失われた技法の再現に成功。1986年「紫檀木画箱」の復元模造を完成し、正倉院に納めた(2点制作し、内1点は当館に寄託)。以降、王朝風のクラシカルなスタイルを守りながら、新しい技術や復元した技法を駆使して、これまでの木工芸の枠にはまらない精緻かつ多彩な、大坂独自の世界を展開している。  
平成15年を境に大坂は作品を公開しておらず、近作の約20点は未知の領域ともいえる作品群。その初公開と目を見張る変貌ぶりも本展の見どころの一つである。  
40年に亘る制作活動から生み出された作品のほとんどにあたる、約45点が当館に寄託されたことを記念して大坂の作品の全貌を紹介した。
- 2 会期 平成24年11月29日(木)～平成25年2月11日(月・祝) 60日間
- 3 会場 2階 常設展示室
- 4 主催 練馬区立美術館
- 5 内容 寄託を受けた45点の作品に新作などを加え、計59点。
- 6 図録 『人間国宝 大坂弘道展』を制作した。
- 7 観覧料 無料
- 8 イベント 講演会 諸山正則 1/9  
大坂弘道 1/26  
ギャラリートーク 大坂弘道によるギャラリートーク 12/8  
学芸員によるギャラリートーク 12/1・2/2  
読み語り 銀河万丈 1/12
- 9 観覧者数 15,272人(254人/日) 当初見込み 10,800人(180人/日)
- 10 担当 学芸員 加藤陽介 真子みほ

「超然孤独の風流遊戯 小林猶治郎展」  
開催要項

1 開催趣旨 「こんなに生きて きまりがわるい」が口癖だったという画家・小林猶治郎(こばやし・なおじろう：1897-1990年)。25歳までと余命を宣告されながらも、医師の言葉に反して93歳まで絵を描き続けた。飄々と画家人生を歩んだ猶治郎を紹介する公立美術館では初の展覧会である。

猶治郎は東京の下町・墨東向島で少年時代を過ごす。肺を病み1918年に慶応大学普通部を中退してからは、残りの人生は好きな絵を描いて過ごそうと、葵橋洋画研究所や日本美術学校洋画科で学びなおす。1927年第8回帝展に《なぎさ》が初入選。牧野虎雄に師事し、槐樹社展ならびに旺玄会展を中心に発表した。

伸びのある力強い筆触で描かれた初期作から、「油彩日本画」と称した俳味を強く感じさせる晩年の作まで、油彩画、素描など約80点を一堂に展覧する。また子どもたちとの交流し、まぶしい感性を受けとめた《童心双六》のような愛情あふれる作品からは、生涯を通して子どもへの視点を持ち続けた猶治郎という人物をうかがう事ができるだろう。

本展は、晩年過ごした練馬の画室に残された作品を調査し、修復作業を経て展示するものである。猶治郎が語る「超然孤独の風流遊戯」の全貌を明らかにする。

- 2 会 期 平成25年2月17日(日)～4月7日(日)
- 3 会 場 3階 企画展示室
- 4 主 催 練馬区立美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会
- 5 協 賛 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
- 6 内 容 小林猶治郎の油彩画82点、ほか素描、資料など
- 7 図 録 本展に合わせ制作
- 8 観覧料 有料(\*富田有紀子展と共通観覧チケット)
- 9 イベント
- ・学芸員によるギャラリートーク  
(毎週土曜日開催、3/2、30日は富田有紀子が参加)
  - ・ジャズコンサート(3/17)
  - ・銀河万丈による読み語り(3/31)
- 10 観覧者見込 4,440人 (103人/日)
- 11 担 当 学芸員 上山陽子

「富田有紀子展」  
開催要項

- 1 開催趣旨        咲き誇る花々や瑞々しい果実を、四角い画面いっぱいに描きこむ富田有紀子（東京・1958年生まれ）。その絵画群は、生命力にあふれ力強く、観る人々にエネルギッシュな印象を与える。本展はその画業を紹介する美術館では初の展覧会となる。富田は、画家であった祖父の影響で高校時代から公募展へ油彩画を出品。80年代には陶やブロンズを素材としたインスタレーション作品を中心に発表するが、95年ごろからオーソドックスな油彩画を描く。1996年には、作品《25》が若手平面作家の登竜門のひとつ「VOCA展」で奨励賞を受賞すると一躍脚光を浴びた。象徴的な空間の中から光に満ちた開口部がひらきゆく神秘的な作風は、やがて花や果実に画題を得て、写実的な絵画へとスタイルを変化。しかしその画面には常に、何も無い空間の中から光あふれる世界の種が芽吹き、ふくらみ、広がっていく神秘の瞬間が焼き付けられているといえる。本展は、富田有紀子の油彩画100点余りを一堂に集め、ますます輝きを増していく気鋭の画家のこれまでとこれからに注目する機会となる。
- 2 会 期        平成25年2月17日(日)～4月7日(日)
- 3 会 場        2階 常設展示室
- 4 主 催        練馬区立美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会
- 5 協 賛        ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
- 6 内 容        富田有紀子の油彩画など100点程度。
- 7 図 録        リーフレット制作
- 8 観覧料        有料（\*小林猶治郎展と共通観覧チケット）
- 9 イベント     ・学芸員によるギャラリートーク  
                  (毎週土曜日開催、3/2、30日は富田有紀子が参加)  
                  ・ジャズコンサート(3/17)  
                  ・銀河万丈による読み語り(3/31)を開催
- 10 観覧者見込 4,440人（103人/日）
- 11 担 当        学芸員 上山陽子

## (2) 教育普及事業

### 平成24年度 教育普及事業実績

平成25年3月5日現在

#### 館内事業

#### 展覧会関連 (各展覧会を楽しむ)

#### 関連ワークショップ・講座

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
鹿島茂展2 バルビエ×ラブ ルール 関連ワークショップ	絵から見つける模様 布に描いてコサージュ作り	4月28日(土) 13:30～17:00	松尾由佳 (グラフィックデザイナー)	展示作品中から好きな模様を見つけ真似して布に描き、コサージュに仕立てた	小学4年生 以上	1,000	20	24	19
	dress up today? 好きなファッションを描いてみよう	6月3日(日) 14:00～17:00	網中いづる (イラストレーター)	網中氏のイラストが描かれた紙に、展覧会で見た洋服やアクセサリを描き込み綴じてファッションブックを作った	小学生 以上	500	20	43	19
N+N展 関連ワークショップ	「ジャイアントメイズをみんなで作って遊ぼう」	7月7日(土) 16:00～17:01 7月7日(土) 16:00～17:02	桑原淳司 (日本大学芸術学部デザイン学科教授)	透明なシートを貼り合せて大きくし、穴や切込みを入れてみんなで遊具を作った(於展示室)	小学生 小学生	無料 無料	10 10	当日 受付	10 6
	「野菜で楽器を作って演奏しよう」	7月7日(土) 16:00～17:00	川上央 (日本大学芸術学部音楽学部教授)	人参などの野菜に穴をあけ、ストローのリードをつけて楽器を作った。完成した楽器は展示室で皆で演奏した	幼児～ 大人	無料	30	当日 受付	26
	僕たち墨戯団！水墨画で扇子を作ろう [A]	7月27日(金) 10:30～12:30	真子 みほ (当館学芸員)	船田の扇面画を中心に鑑賞した後、墨を擦り画用紙に水墨画の練習をし、扇子に好きなものを描いた	小学1 ～3年生	300	20	15	11
僕たち墨戯団！水墨画で扇子を作ろう [B]	7月27日(金) 14:00～16:00	小学1 ～3年生			300	20	20	17	
僕たち墨戯団！水墨画で扇子を作ろう [C]	7月28日(土) 10:30～12:30	小学1 ～3年生			300	20	16	11	
僕たち墨戯団！水墨画で扇子を作ろう [D]	7月28日(土) 14:00～16:00	小学1 ～3年生			300	20	4	4	
船田玉樹展 関連講座	墨で木を描こう[A]	7月29日(日) 10:30～17:00	船田の木を描いた水墨作品を鑑賞し、公園で木をスケッチした後、水墨の練習をし色紙に各々の木の姿を描いた	小学生	300	20	19	18	
	墨で木を描こう[B]	8月3日(金) 10:30～17:00		小学生	300	20	29	20	
	日本画を描こう！ [A] [2日間]	8月11日(土) ～12日(日) 10:30～17:00	子どもを対象とした日本画講座。F4木製パネルへ麻紙を水張りし、自宅で描いてきた下絵をトレースし、絵具を作って着彩した	小学4年 生～中 学生	1,000	20	9	9	
	日本画を描こう！ [B] [2日間]	8月18日(土) ～19日(日) 10:30～17:00		小学4年 生～中 学生	1,000	20	1	1	
棚田康司展 関連ワークショップ	木彫に挑戦！ [2日間]	10月20日(土) ～21日(日) 10:30～17:00	棚田康司 (彫刻家)	12×12×20cmの楠材をノミで彫刻した。題材は自由で事前に下書き用紙を送り宿題とした	小学5年 生 以上	1,500	15	36	14
						265	216	185	

計14回 参加者延185名

ギャラリートーク

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
平澤熊一展	ギャラリートーク	6月9日(土) 15:00～	平澤三之助 × 上山 陽子 (当館学芸員)	担当学芸員と出品作家長男によるギャラリートーク		観覧料		65
		6月16日(土) 15:00～	上山 陽子 (当館学芸員)	担当学芸員による ギャラリートーク		観覧料		30
		6月23日(土) 15:00～				観覧料		20
鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール	ギャラリートーク	5月20日(日) 11:00～	鹿島茂 (明治大学教授)	出品者鹿島氏による ギャラリートーク		観覧料		65
船田玉樹展	ギャラリートーク	7月21日(土) 15:00～	野地耕一郎 (当館学芸員)	担当学芸員による ギャラリートーク		観覧料		130
		8月4日(土) 15:00～				無料		100
	ギャラリートーク	9月8日(土) 15:00～	船田奇岑 × 野地耕一郎 (当館学芸員)	担当学芸員と出品作家御子息による ギャラリートーク		観覧料		150
棚田康司展	アーティストトーク	9月22日(土) 15:00～	棚田康司 (出品作家)	出品作家棚田氏による ギャラリートーク		観覧料		70
		10月27日(土) 15:00～	棚田康司 (出品作家) × 三瀨末雄 (アートディレクター)	出品作家棚田氏とアートディレクター三瀨氏による ギャラリートーク		観覧料		115
大坂弘道展	ギャラリートーク	12月1日(土) 15:00～	加藤陽介 (当館学芸員)	担当学芸員による ギャラリートーク		観覧料		30
	ギャラリートーク	12月8日(土) 15:00～	大坂弘道 (出品作家)	出品作家大坂氏による ギャラリートーク		観覧料		110
	ギャラリートーク	2月2日(土) 15:00～	加藤陽介 (当館学芸員)	担当学芸員による ギャラリートーク		観覧料		50
小林猶治郎展	ギャラリートーク	2月23日(土) 15:00～	上山 陽子 (当館学芸員)	担当学芸員による ギャラリートーク		観覧料		30
		3月2日(日) 14:00～				観覧料		70
		3月9日(土) 15:00～				観覧料		
		3月16日(土) 15:00～				観覧料		
		3月23日(土) 15:00～				観覧料		
		3月30日(土) 15:00～				観覧料		
		4月6日(土) 15:00～				観覧料		
								1035

計19回 参加者延1035名

講演会、シンポジウム等

事業名	日程	講師・パネリスト	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
鹿島コレクション2 バルビエ×ラブルール 関連講座	「狂乱の時代 1920年代のフランス美術」	4月21日(土) 14:30～16:00	高階 秀爾 (西洋美術振興財団理事長、大原美術館館長)	美術史の観点から、バルビエとラブルールが活躍した時代についてお話しいただいた	中学生以上	展覧会観覧料	70	120	66
	「好きなものは何でも蒐めたい! コレクションの楽しみ」	4月15日(日) 14:30～16:00	鹿島 茂 (フランス文学者、明治大学国際日本学部教授)	コレクターの立場から、コレクションすることの楽しみをお話しいただいた(於視聴覚室)	中学生以上	展覧会観覧料	70	100	68
	「バルビエ×ラブルール 色彩と線描のイラストレーション」	5月6日(日) 14:30～16:00	鹿島 茂 (フランス文学者、明治大学国際日本学部教授)	バルビエやラブルールを蒐集するようになったきっかけやその魅力についてお話しいただいた(於視聴覚室)	中学生以上	展覧会観覧料	70	136	71
	「装飾芸術の華 アールデコファッションとファッションプレート」	5月19日(土) 14:30～16:00	深井 晃子 (京都服飾文化財団チーフ・キュレーター)	服飾研究の観点から、アールデコの時代のファッションについてお話しいただいた(於視聴覚室)	中学生以上	展覧会観覧料	70	84	61
	「踊る絵画、動く色彩/バレエ・リュスの世界」	5月26日(土) 14:30～16:00	鈴木 晶 (法政大学教授、早稲田大学大学院客員教授)	バルビエが描いた絵画を中心に、バレエ・リュスの世界をご紹介いただいた(於視聴覚室)	中学生以上	展覧会観覧料	70	129	68
N+N展関連講座	「触れる 高村光太郎「触覚の世界」から」	7月8日(土) 15:00～16:30	高橋幸次 (日本大学芸術学部美術学科教授)	高村の「触覚」に関するテキストを紐解きながら、作品鑑賞についてお話しいただいた(於視聴覚室)	中学生以上	無料	60	40	33
棚田康司展関連特別講演会	「未性者と表現」	10月6日(土) 14:30～16:00	暮沢剛巳 (東京工科大学デザイン学部教授)	棚田氏の作品について、現代美術の観点からお話しいただいた(於視聴覚室)	中学生以上	無料	70	52	47
	「日本の木彫像」	11月17日(土) 14:30～16:00	武笠朗 (実践女子大学教授)	日本における木彫の歴史を紐解きながら、棚田氏の作品についてお話しいただいた(於視聴覚室)	中学生以上	無料	70	35	30
棚田康司展関連子ども講演会	「仏像ってなんだ? 木彫ってなんだ?」	11月24日(土) 14:30～16:00	小倉絵里子 (高崎市タワー美術館学芸員)	スライドを使った仏像の説明を聞いたり、様々な種類の木の違いを見ながら仏像について学んだ	小学3～6年生	無料	30	2	2
大坂弘道展関連特別講演会	「大坂弘道の木工芸とその現在」	1月19日(土) 15:00～16:30	諸山正則 (東京国立近代美術館主任研究員)	専門家の視点から、木工芸の世界や大坂氏の作品の魅力についてお話しいただいた(於視聴覚室)	中学生以上	無料	70	70	65
	「正倉院宝物と私 - 30数年に渡る宝物との関わりから」	1月26日(土) 15:00～16:30	大坂弘道 (出品作家)	作家ご本人より、正倉院宝物との関わりから自身の作品に対する思いをお話しいただいた(於視聴覚室)	中学生以上	無料	70	235	86
						720	1003	597	
						計11回 参加者延597名			

コンサート・ライブパフォーマンス

事業名	日程	出演	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
鹿島コレクション2 パルピエ×ラブルール 関連 ラ・フォルジュルネ・オ・ジャポンによるスペシャルコンサート	4月22日(日) 15:00～	亀田賢(ピアノ)、 奥村智洋(ヴァイオリン)	ラ・フォルジュルネ・オ・ジャポンから演奏者をお招きし、ロシア音楽を演奏いただいた		観覧料			98
	4月29日(日) 15:00～							90
N+N展関連ダンス公演「薔薇」	6月30日(土) 16:00～	出演江上真子(日本大学芸術学部演劇学科3年生)、創舞:笹山志帆(演劇学科助手)、舞台装置:鞍掛純一(芸術学科教授)、音楽:川上央(音楽学科教授)			観覧料			50
船田玉樹展関連コンサート 「幻の古楽器 七弦琴コンサート」	7月28日(土) 15:00～	楊鵬(中国七弦琴呉派伝人)			観覧料			85
船田玉樹展関連コンサート 「幻惑の楽器 テルミンコンサート」	8月25日(土) 15:00～	IpsO FACTO 船田奇岑(テルミン)、RAKUSU PROJECT.、西田彩による電子音楽ユニット			観覧料			123
船田玉樹展関連読み語り	9月1日(土) 15:00～16:30	銀河万丈(声優)	浅田次郎『五郎治殿御始末』より「椿寺まで」等(貫井図書館共同主催)	高校生以上	観覧料	70	78	70
棚田康司展関連読み語り	10月7日(土) 15:00～16:30	銀河万丈(声優)	朱川湊人『あした咲く薔』等(貫井図書館共同主催)	中学生以上	観覧料	70	49	45
大坂弘道展関連読み語り	1月12日(土) 15:00～16:30	銀河万丈(声優)	宮部みゆき『幻色江戸ごよみ』等(貫井図書館共同主催)	高校生以上	無料	70	118	57
小林猶治郎展	記念ジャズコンサート	3月17日(日) 15:00～	青木裕子(ピアノ)、田村俊雄(アルトサクソフーン)、朝比奈治郎(ギター)		観覧料			
	読み語り	3月31日(日) 15:00～16:30	銀河万丈(声優)	重松清『さくら地蔵』等(貫井図書館共同主催)	中学生以上	観覧料	70	
								618

参考 東日本大震災復興支援チャリティコンサート 西江辰郎&アングローロ 3月13日(水)15:00～16:00(予定)

計10回 鑑賞者延618名

鑑賞プログラム

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
大坂弘道展	トコトコ美術館 [A] vol.9「木」	2月9日(土) 10:30～11:30	真子みほ (当館学芸員)	大坂展を鑑賞した後絵本『ふゆめがっしょうだん』を読み、木っ端に様々な木(爪楊枝、ウッドチップ、アイスの棒等)を貼り付け模様を作り、簡単な木象嵌を楽しんだ	3～6歳 + 保護者	無料	各回 5組	5組 10名
	トコトコ美術館 [B] vol.9「木」	2月9日(土) 15:00～16:00						4組 9名
								19

計2回 参加者延19名

）美術講座（美術に関する知識を学ぶ）

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
初心者向けデッサン	「鉛筆で花を描く」 (2日間)	1月13日(日) 10:30～17:00 1月14日(月祝) 10:30～17:00	黒石 千恵子 (女子美術大学日本画研究室専任助手)	百合の花をモチーフに、鉛筆削りから物のとらえ方、立体の意識など鉛筆デッサンの基礎を学んだ	中学生以上	2,000	20	57	20
ドローイング	「音を描いてみよう」	2月2日(土) 13:30～16:00	多和田有希 (アーティスト)	目隠しをして音楽を聴きながら、大きな画用紙にペンやコンテで絵を描いた	中学生以上	300	15	14	10
おでかけ”三井記念”美術館【A】	3月26日(火) 10:30～17:00	亀井愛(三井記念美術館学芸員)	2つの美術館を1日で巡り、「美術館」について学ぶ	新小学4年～ 新中学1年	50	10			
おでかけ”三井記念”美術館【B】	3月27日(水) 10:30～17:00	真子みほ (当館学芸員)		10					
						55	71	30	
						計4回 参加者延30名			

）美術館を楽しむワークショップ（人が集う「場」作り）

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加	
四季のみじたく	夏のみじたく 「楽しい人形アクセサリー」	7月1日(日) 11:30～16:00	イシイリョウコ (イラストレーター) rei yanase (アクセサリーデザイナー)	布にアクリル絵の具でペイントした小さな人形を作り、ビーズやリボンなどを組み合わせてアクセサリーを作った	小学4年生以上	1,000	20	31	19
美術館をつかまえる!?館内探検とフロッタージュ遊び【A】	8月5日(金) 10:30～12:30	真子みほ (当館学芸員)	館内を探検しながら様々な場所に紙を当て鉛筆でこすり出す方法(フロッタージュ)を使って、美術館をつかまえた	5歳～ 小学3年生	100	10	22	9	
美術館をつかまえる!?館内探検とフロッタージュ遊び【B】	8月5日(金) 14:00～16:00					10	9	9	
美術館をつかまえる!?館内探検とフロッタージュ遊び【C】	8月10日(金) 10:30～12:30					10	17	10	
美術館をつかまえる!?館内探検とフロッタージュ遊び【D】	8月17日(金) 10:30～12:30					10	25	10	
四季のみじたく	秋のみじたく 「感じたままにつくる秋のアートブック」	9月22日(土) 14:00～17:00	小野奈那子 (フォトグラファー)	用紙を選び各々が持ち寄った写真をスキャン・プリントアウトし、実際の写真や用紙を組み合わせ綴じ、アートブックに仕立てた	小学4年生以上	500	15	13	11
四季のみじたく	冬のみじたく 「好きな毛糸を合わせて編むシュシュ」	12月1日(土) 13:30～17:00	今井静枝 (当館職員)	自分の好きな毛糸を3本以上選びまとめて指で鎖編みをしシュシュに仕立てた	小学4年生以上	500	20	26	17
四季のみじたく	春のみじたく 「ドローイングバック」	3月30日(土) 10:30～17:00	奥田早織 (布作家)	大きな布にローラーや水鉄砲でアクリル絵具をつけ、その布を切り抜きバックを作る	小学3年生以上	1,000	20		
						115	143	258	
						計8回 延85名			

） その他

事業名	日程	講師	内容	対象	参加費	定員	申込	参加
ラ・フォルジュルネ・オ・ジャポン + バルビエ × ラブルール展開連ワークショップ	5月3日(木祝) 16:00～17:00	真子みほ (当館学芸員)	「シェエラザード」の楽曲と物語から連想して、当館で展示されたバルビエの「シェエラザード」の背景を色鉛筆で描いた(於国際フォーラム)	小学生	無料	20	63	20
商店街を楽しむワークショップ	「お店のマークを考えてフラッグに描こう！」[A] 10月13日(土) 13:30～17:00	真子みほ (当館学芸員)	くじで決めた店舗に児童が各自取材に出かけ、それをもとにマークを考え60cmのフラッグにガッシュで描いた。フラッグは10月末から1月まで商店街に展示された	小学生	無料 当初500円と していたが商店街負担に	20	20	13
	「お店のマークを考えてフラッグに描こう！」[B] 10月14日(日) 13:30～17:00					20	23	20
軽井沢お泊りワークショップ	「近づく、離れる、縮まる、広がる森の中に作る空間」 11月3日(土)～4日(日) [1泊2日]	伊藤 さち (作家) 中村 圭佑 (クリエイティブディレクター)	ベルデ軽井沢で一泊二日のワークショップを行った。今年は4グループに分かれ、布とロープで森の中にそれぞれの空間を作った	小学生～大人 (小学生は保護者と共に申込)	大人9,500 子ども6,600	20	18	17
						80	61	70
						計4回 延70名		

館内事業計72回 参加者延2,908名

学校関連事業

） スクールプログラム 4月にパンフレットを作成し区内小中高等学校に配布。

団体鑑賞

展覧会	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	引率
船田玉樹展	9月7日(金) 10:40～11:25		練馬区立練馬第三小学校・6年2組	33	2
	9月7日(金) 11:30～12:20		練馬区立練馬第三小学校・6年1組	34	2
棚田康司展	10月25日(木) 10:50～11:25		山崎学園富士見中学校・2年菊組	40	2
	10月25日(木) 11:50～12:25		山崎学園富士見中学校・2年竹組	40	3
	11月8日(木) 13:20～14:00		山崎学園富士見高等学校・3年生	14	1
	11月9日(金) 10:50～11:25		山崎学園富士見中学校・2年梅組	39	1
	11月9日(金) 11:50～12:25		山崎学園富士見中学校・2年桃組	38	1
	11月9日(金) 13:20～14:00		山崎学園富士見高等学校・3年生	13	1
	11月14日(水) 10:50～11:25		山崎学園富士見中学校・2年松組	40	1
	11月14日(水) 13:25～14:00		山崎学園富士見中学校・2年桜組	39	1
	11月22日(木) 10:00～10:45		練馬区立石神井東小学校・5年生2クラス	66	4
小林猶治郎展	3月12日(火) 10:00～10:45		練馬区立石神井東小学校・6年生2クラス		
				396	19
				計12回 延415名	

施設見学 各学校の学習目的に合わせて館内(バックヤードを含む)を案内し、施設を紹介した

コース名	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	引率
施設見学	5月22日(火) 13:30~14:30		日本大学芸術学部・博物館実習履修生	40	1
	5月25日(金) 13:30~14:30		日本大学芸術学部・博物館実習履修生		1
	10月6日(土) 13:00~16:00		武蔵大学・博物館学履修生	33	1
	10月4日(木) 11:50~12:25		山崎学園富士見中学校・1年桜組	40	1
	10月10日(水) 11:50~12:25		山崎学園富士見中学校・1年松組	42	2
	10月12日(金) 11:50~12:25		山崎学園富士見中学校・1年梅組	40	1
	10月19日(金) 13:25~14:00		山崎学園富士見中学校・1年竹組	40	1
	10月23日(火) 10:50~11:25		山崎学園富士見中学校・1年菊組	39	1
	10月23日(火) 14:25~15:00		山崎学園富士見中学校・1年桃組	40	3
				314	12
				計9回 延326名	

職場体験 受付や事務、監視、学芸などいくつかの仕事を体験させ、美術館全体の役割を伝えた

コース名	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	見回り
職場体験	6月28日(木) ~29日(金) 9:30~15:00	6月13日(火)	練馬区立石神井西中学校・2年生	3	1
	7月3日(木) ~4日(金) 9:30~15:00	6月20日(水)	練馬区立関中学校・2年生	3	1
		6月22日(金)	練馬区立南が丘中学校・2年生	3	1
		6月14日(木)	練馬区立大泉北中学校・2年生	1	1
	9月27日(木) ~28日(金) 9:30~15:00	9月11日(火)	練馬区立貫井中学校・2年生	3	1
	11月1日(木) ~2日(金) 9:30~15:00	10月26日(金) 16:15~	練馬区立光が丘第三中学校・2年生	3	1
	11月20日(火) ~21日(水) 9:30~15:00	10月30日(火) 16:30~	練馬区立光が丘第二中学校・2年生	3	1
	1月17日(木) 9:30~15:00	1月9日(水)	練馬区立中村中学校・1年生	3	1
	1月22日(火) ~23日(水) 9:30~15:00	1月17日(木) 15:00~	練馬区立豊溪中学校・1年生	3	1
	2月8日(金) 9:30~15:00	1月16日(水) 15:00~	練馬区立大泉学園中学校・1年生	3	1
			28	10	
				計10回 延38名	

職場訪問 次年度の職場体験に向け一年生が来館しインタビューなどを受けた

コース名	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	引率
職場訪問	9月7日(金) 14:30～14:40		練馬区立光が丘第四中学校・1年生	1	
				1	0
				計1回	延1名

出張プログラム 担当者が学校へ赴き事業を行った

コース名	日程	事前訪問日程	学校名	生徒数	引率
出張プログラム	10月24日(水) 11:45～12:35		山崎学園富士見中学校・2年生	240	
	10月31日(水) 10:35～11:20		練馬区立大泉第六小学校・3年2組	30	
	10月31日(水) 11:25～12:10		練馬区立大泉第六小学校・3年1組	32	
	10月31日(水) 13:25～14:10		練馬区立大泉第六小学校・3年3組	31	
				333	0
				計4回	延333名

スクールプログラム 計17校36回 参加児童・生徒・学生 延1,113名

）ティーチャーズディ

当館及び当館主催の展覧会を、授業等で活用していただくために、区内の小中学校の先生を対象とした展覧会鑑賞日を設けた。

各日ともに展示担当学芸員(または教育普及担当)による展示解説を30分程度行い、その後は自由鑑賞とした。

展覧会名	日程	参加人数
バルビエ×ラブルール展	4月17日(火) 15:30～16:30	3
船田玉樹展	7月24日(火) 15:30～16:30	10
棚田康司展	9月24日(火) 15:30～16:30	13
大坂弘道展	12月4日(火) 15:30～16:30	7
小林猶次郎展	2月19日(火) 15:30～16:30	12
		計5回 延45名

）スクールミュージアム

美術館の所蔵作品を学校の授業に役立ててもらうため、紙製の図版カード(トランプ大)、マグネットシート(A4版/A3版)、専用パネルの貸し出しを行った。

これらのツールは、平成18年文化庁芸術拠点形成事業助成を受け、当館の所蔵作品から104点を選出し、作成したもの。

本年度の貸し出し なし

）その他

学外活動受け入れ 都立大泉桜高校美術部部員 延18名(引率延4名)

日時		参加プログラム名	活動内容	人数	引率
7月27日(金)	10:00～17:00	水墨画で扇子を作ろう【A】	プログラムの準備・片付け、写真撮影、制作補助等	5名	1名
		水墨画で扇子を作ろう【B】			
8月5日(日)	10:00～17:00	美術館をつかまえる!【A】		4名	1名
		美術館をつかまえる!【B】			
8月18日(土)	10:00～18:00	日本画を描こう!【B】		5名	1名
8月19日(日)	10:00～18:00			4名	1名

教育普及事業全参加者 計4,088名

## 平成24年度 博物館実習実績

実習実施期間      平成24年9月6日(木)～9月16日(日) < 10日間 >

No	大学名	学部等	人数
1	武蔵野美術大学	大学院造形研究科修士課程	1名
2	共立女子大学	文芸学部分芸学科造形芸術コース	1名
3	跡見学園女子大学	文学部人文学科	1名
4	大東文化大学	文学部日本文学科	1名
5	清泉女子大学	文学部文化史学科	1名
6	尚美学園大学	大学院芸術情報研究科	1名
7	駿河台大学	メディア情報学部メディア情報学科	1名
8	学習院大学	文学部哲学科	1名
9	実践女子大学	文学部美学美術史学科	1名
10	大正大学	文学部歴史文化学科日本史専攻	1名
11	法政大学	人間環境学部人間環境学科	1名
12	立教大学	コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科	1名
13	明治学院大学	文学部芸術学科	1名
合		計	13名

(23年度 14名)

## 平成 24 年度ぐるっとパスの利用状況

「ぐるっとパス」とは、東京の美術館・博物館等共通入場券のことである。参加している都内の美術館・博物館計 75 館は、各館の入場券を束ねたパス（冊子になっていて、使用開始日から 2 か月間有効）を 1 冊 2,000 円で販売する。当館においても、観覧者と収入の増を見込んで平成 23 年度から参加している。23 年度には約 30 万円の収益を得た。今年度も同様に収益を見込んでい

る。  
平成 25 年度には、参加する館が 2 か所増えて 77 館になる予定である。  
また、25 年度にぐるっとパス事務局（東京都歴史文化財団内）では、各館の負担金を現行の年 20 万円から 15 万円に引き下げるとともに、チラシの発行回数を年 3 回から 2 回に減らし経費の節減を図るなど、一層の収益アップに取り組む予定である。

24 年 4 月～25 年 2 月末の

当館のパス売上数 167 冊

パスを利用して当館に入場した人の数 1,678 人

## 文化芸術振興施策の今後のあり方について

### 1 経緯

#### (1) 文化芸術施設について

文化芸術施設（練馬文化センター、大泉学園ゆめりあホール、美術館、石神井公園ふるさと文化館(以下「ふるさと文化館」という。)のうち、練馬文化センターおよび大泉学園ゆめりあホールの管理運営については、開設当初は委託(財団法人 練馬区文化振興協会に委託)により行っていたが、平成 18 年度から指定管理者制度を導入した。

#### (2) 公益財団法人 練馬区文化振興協会について

公益財団法人 練馬区文化振興協会(以下「文化振興協会」という。)は、昭和 57 年の設立以来、主に練馬文化センターおよび大泉学園ゆめりあホール等での舞台芸術を中心に企画・運営してきた。その後、より身近な施設や場所で文化芸術に親しむ機会の提供、また、区内大学等の文化活動を行う団体・企業等との連携・支援事業、さらには、区にゆかりの文化人が遺した芸術資産を展示等に活用する事業(以下「文化芸術資産活用事業」という。)等を実施するなど、「練馬区文化芸術振興計画」等に基づき、文化芸術振興に関わる活動の幅を広げ、平成 24 年 4 月に公益財団法人の認可を受けた。

#### (3) 組織改正について

区は、平成 24 年 4 月に区長部局（区民生活事業本部）に新たに地域文化部を設置し、これまで区長部局（総務部）と教育委員会（生涯学習部）がそれぞれ所管してきた文化芸術施設に関わる組織の一元化を行い、文化芸術振興施策の推進体制の整備を図った。

#### (4) 指定管理者制度の導入について

美術館およびふるさと文化館は、現在、区の直営(一部業務委託)であるが、「行政改革推進プラン(平成 23 年度～平成 26 年度)」の「区立施設の委託化・民営化実施計画」において、美術館は指定管理者の導入を検討する施設、ふるさと文化館は平成 27 年度に指定管理者を導入する施設としている。

## 2 今後の区の文化芸術振興施策の方向性

上記の経緯を踏まえ、今後の文化芸術振興施策の展開について次の柱を視点に展開していく。

### (1) 文化芸術各分野の連携を進め、区の特徴ある文化との融合を図る

音楽・舞台芸術、美術および伝統文化の各分野の一層の連携を進め、文化芸術施設相互の事業の関連性を高めつつ、区が誇るアニメーションなど特徴的な事柄も文化の観点から連携を深め、新たな地域文化を創造することを視点に各施設が横断的な事業展開を図っていくことを目指す。

### (2) 民間活力を活かした文化芸術事業の推進を図る

区民、文化芸術団体、区内三大学等との協働による事業を一層進めるとともに、民間の多様な手法、多彩な人材等を積極的に活用した機動的な事業実施と柔軟な施設運営に向けた体制づくりを行う。

### (3) 区と文化振興協会が担う役割を明確化する

区は文化芸術関連施策の一元化により、統一した文化芸術振興の方針を示すとともに、より多くの区民が文化芸術に親しむことができるよう、その環境づくりに努める。

文化振興協会は、協会の設立趣旨および区が示す文化振興の方針に基づき、文化芸術施設の指定管理者として運営を一体的に担うことを通じて、各分野の連携を目指した文化芸術事業を進める。

## 3 文化振興協会が文化芸術施設の指定管理を担う理由

(1) 区と連携した文化芸術振興施策を推進するための外郭団体であり、長年にわたり区の方針に基づく文化芸術事業を展開している実績があること。

(2) 職員派遣をはじめ区立文化芸術施設の運営の継続性を確保するとともに、安定的な運営が図れる支援が可能であること。

(3) 公益財団法人として認可を受け、公益事業である文化芸術施設の運営に、民間の多様な手法、多彩な人材を活用して、適宜、より自由度の高い事業展開を図ることが可能であること。

(4) これまでに培った音楽・舞台芸術分野での実績をもとに、美術館およびふるさと文化館との連携や機能の融合による新たな事業展開を担えること。

## 4 文化芸術施設の指定管理者導入のスケジュール(案)

文化芸術施設の指定管理者制度導入スケジュールについては、関連施設の整備に合わせて段階的に導入するものとし、練馬文化センター、大泉ゆめり

あホールについては、文化振興協会が次回の指定管理期間(平成 28 年度～)の指定管理者となることを目指す。

(1) ふるさと文化館の予定

平成 25 年 6 月 第二回定例会 ふるさと文化館条例改正議案提案  
11 月 第四回定例会 ふるさと文化館指定管理者指定議案提案  
平成 26 年 4 月 ふるさと文化館の指定管理者制度導入

(2) 美術館の予定

平成 26 年度 美術館指定管理者制度導入準備  
美術館条例等改正議案の提案  
美術の森緑地整備工事・開園  
平成 27 年度 美術館の指定管理者制度導入

## 5 関連事項

平成 26 年度に仮称練馬区立日本銀行石神井運動場跡地公園内クラブハウスの一部を活用して、文化芸術資産活用事業を開始することとしている。

当該事業は次の理由によりふるさと文化館の事業に位置付け、これまで文化振興協会が担ってきた実績を活かしていく。

- (1) ふるさと文化館の設置目的、機能と文化芸術資産活用事業の目的、機能が合致していること。
- (2) 文化芸術資産活用事業をふるさと文化館の事業として明確化し、充実を図ることができること。
- (3) 両施設の位置が近接しており、一体的運営により集客性を高められるとともに、人員配置の効率化が図れること。